

【 投球数制限について 】

- ・ 2021年度は周知期間とする
- ・ 2022年度よりすべての構成団体において完全適用とする

1. 中学生（レギュラーの部）

1) レギュラーの試合での登板は以下の通り制限する

- ① 1日最大80球とし、連続する2日間で120球以内とする
連続する2日間で80球を超えた場合、3日目は投球を禁止する
- ② 3連投（連続する3日間）する場合は1日の投球数を40球以内とし、
4連投（連続する4日間）は禁止とする
なお当該投手の投球制限内での投球カウントの停止は行わない
ダブルヘッダーの場合で2試合に登板した場合は連続2日間投球したこととする
また、1試合のみ投球した場合は1日の投球とする
- ③ 大会中は1日80球以内とし、翌日投球を休めば3日目は80球の投球を可能とする
- ④ ①～③を基本原則とするが、打者の途中で降板しなければならない投球制限に達した時は、
当該打者の打席終了までは投球を認める
投球数を超過した球数は翌日以降に投球数にカウントしない
3連投させたい場合の1日目及び2日目（ダブルヘッダーの場合は1試合目）の40球以上はカウントされる
- ⑤ 連続する2日間で80球を超えた投手、並びに3連投した投手は、翌日は捕手としても
出場できない
- ⑥ ボークは投球数としない
- ⑦ 申告敬遠は投球数としない（打者の途中の場合は、それまでの投球はカウントする）
- ⑧ 雨などでノーゲームになった試合は投球数にカウントする
- ⑨ 2年生以下が投手の場合も上記に準ずるが指導者は十分考慮すること

2) 練習の中での全力投球は以下の通りとする

1日70球以内、週350球以内とする
また週1日以上、全力による投球練習をしない日を設ける事

「中学生投手の投球数制限統一ガイドライン」の適用例

	第 一 日 目	第 二 日 目	第 三 日 目	第 四 日 目	第 五 日 目	第 六 日 目	備 考
投手A	80	0	80	0	80	0	80球投げた翌日には登板していないため、翌々日には80球投球できる。 (打者終了時に80球を超えても、1試合分の最大カウント数は80球)
投手B	80	40	休	80	0	80	第1日目80球、第2日目40球で連続する2日間で120球となったため、第3日目は 投手・捕手として出場できない。(また、2日間で80球を超えているので第3日目は 捕手して出場できない規定もある。投手D参照)
投手C	40	40	35	休	80	40	3日間連続40球以内であれば登板可能。ただし球数に関わらず3日間連続登板 した場合は、第4日目は投手・捕手として出場できない。 第4日目が休みだったので、第5日目80球、第6日目40球の投球は可能。
投手D	40	45	休	30	60	休	第1日目、第2日目で80球を超えたため、第3日目は投手・捕手として出場できない。 第4日目、第5日目で連続する2日間で80球を超えているため、第6日目の3日間 連続登板および捕手として出場できない。
投手E	40	40 40	休	80	0 40	休	第1日目、第2日目で40球以内の3連投をしているため、第3日目は投手・捕手と して出場できない。第4日目は80球のため第5日目は投球した時点から1試合目に 登板してなくても連続する2日間で80球を超えているため、第6日目は投手・捕手 として出場できない。
投手F	30 50	休 * 捕 手 可	40 40	40	休	80	ダブルヘッダーで80球以内であっても、どちらかの試合で40球を超えた場合は、3連投 できないが、*連続した2日間で80球以内なので、翌日は捕手としては出場できる。 第3日目からの3連投は40球以内なので可能であるが、3連投した投手は、第5日目 は投手・捕手として出場できない。

※数字は投球数。「休」は投手または捕手として出場できない日。「0」は登板しなかった試合。

※指導者は、公式戦だけでなく、練習試合も対象となっていることを認識する。

2. 中学生（ジュニアの部）

1) ジュニアの試合での登板は以下の通り制限する

- ① 1日最大70球とし連続する2日間で105球以内とする
連続する2日間で70球を超えた場合、3日目は投球を禁止する
- ② 3連投（連続する3日間）する場合は1日の投球数を35球以内とし、
4連投（連続する4日間）は禁止とする
なお当該投手の投球制限内での投球カウントの停止は行わない
ダブルヘッダーの場合で2試合に登板した場合は連続2日間投球したこととする
また、1試合のみ投球した場合は1日の投球とする
- ③ 大会中は1日70球以内とし、翌日投球を休めば3日目は70球の投球を可能とする
- ④ ①～③を基本原則とするが、打者の途中で降板しなければならない投球制限に達した時は、
当該打者の打席終了までは投球を認める
投球数を超過した球数は翌日以降に投球数にカウントしない
3連投させたい場合の1日目及び2日目（ダブルヘッダーの場合は1試合目）の35球以上はカウントされる
- ⑤ 連続する2日間で70球を超えた投手、並びに2連投した投手は、翌日は捕手としても
出場できない
- ⑥ ボークは投球数としない
- ⑦ 申告敬遠は投球数としない（打者の途中の場合は、それまでの投球はカウントする）
- ⑧ 雨などでノーゲームになった試合は投球数にカウントする

2) 練習中での全力投球は以下の通りとする

1日70球以内、週350球以内とする
また週1日以上、全力による投球練習をしない日を設ける事

「中学生投手の投球数制限統一ガイドライン」の適用例

	第 一 日 目	第 二 日 目	第 三 日 目	第 四 日 目	第 五 日 目	第 六 日 目	備 考
投手A	70	0	70	0	70	0	70球投げた翌日には登板していないため、翌々日には70球投球できる。 (打者終了時に70球を超えても、1試合分の最大カウント数は70球)
投手B	70	35	休	70	0	70	第1日目70球、第2日目35球で連続する2日間で105球となったため、第3日目は 投手・捕手として出場できない。(また、2日間で70球を超えているので第3日目は 捕手として出場できない規定もある。投手D参照)
投手C	35	35	30	休	70	35	3日間連続35球以内であれば登板可能。ただし球数に関わらず3日間連続登板 した場合は、第4日目は投手・捕手として出場できない。 第4日目が休みだったので、第5日目70球、第6日目35球の投球は可能。
投手D	35	40	休	30	50	休	第1日目、第2日目で70球を超えたため、第3日目は投手・捕手として出場できない。 第4日目、第5日目で連続する2日間で70球を超えているため、第6日目の3日間 連続登板および捕手として出場できない。
投手E	35	35 35	休	70	0 35	休	第1日目、第2日目で35球以内の3連投をしているため、第3日目は投手・捕手と して出場できない。第4日目は70球のため第5日目は投球した時点から1試合目に 登板してなくても連続する2日間で70球を超えているため、第6日目は投手・捕手 として出場できない。
投手F	30 40	休 * 捕 手 可	35 35	35	休	70	ダブルヘッダーで70球以内であっても、どちらかの試合で35球を超えた場合は、3連投 できないが、*連続した2日間で70球以内なので、翌日は捕手としては出場できる。 第3日目からの3連投は35球以内なので可能であるが、3連投した投手は、第5日目 は投手・捕手として出場できない。

※数字は投球数。「休」は投手または捕手として出場できない日。「0」は登板しなかった試合。

※指導者は、公式戦だけでなく、練習試合も対象となっていることを認識する。

3. 小学生（レギュラーの部）

1) レギュラーの試合での登板は以下の通り制限する

- ① 1日最大65球とし連続する2日間で105球以内とする
連続する2日間で65球を超えた場合、3日目は投球を禁止する
- ② 3連投（連続する3日間）する場合は1日の投球数を40球以内とし、
4連投（連続する4日間）は禁止とする
なお当該投手の投球制限内での投球カウントの停止は行わない
ダブルヘッダーの投球を禁止する
- ③ 大会中は1日65球以内とし、翌日投球を休めば3日目は65球の投球を可能とする
- ④ ①～③を基本原則とするが、打者の途中で降板しなければならない投球制限に達した時は、
当該打者の打席終了までは投球を認める
投球数を超過した球数は翌日以降に投球数にカウントしない
3連投させたい場合の1日目及び2日目の40球以上はカウントされる
- ⑤ 小学部においては投手から捕手の制限は設けない
- ⑥ ボークは投球数としない
- ⑦ 申告敬遠は投球数としない（打者の途中の場合は、それまでの投球はカウントする）
- ⑧ 雨などでノーゲームになった試合は投球数にカウントする
- ⑨ レギュラーの部の大会において5年生（4年生）が投球した場合でもレギュラーの部の投球制限とするが、指導者は十分考慮すること

2) 練習の中での全力投球は以下の通りとする

1日50球以内、2日間で90球以内とする
また2日間投球した場合、3日目は投球してはならない

「小学生投手の投球数制限統一ガイドライン」の適用例

	第 一 日 目	第 二 日 目	第 三 日 目	第 四 日 目	第 五 日 目	第 六 日 目	備 考
投手A	65	0	65	0	65	0	65球投げた翌日には登板していないため、翌々日には65球投球できる。 (打者終了時に65球を超えても、1試合分の最大カウント数は65球)
投手B	65	40	休	65	0	65	第1日目65球、第2日目40球で連続する2日間で105球となったため、 第3日目は登板できない。
投手C	40	25	40	休	65	40	40球以内で連続する2日間で65球以内であれば3日間連続登板可能。 ただし、球数に関わらず3日間連続登板した場合は、第4日目は登板できない。 第4日目が休みだったので、第5日目65球、第6日目40球の投球可能。
投手D	40	30	休	15	50	休	第1日目、第2日目で65球を超えたため、第3日目は登板できない。 第4日目、第5日目は65球以内だが、第5日目で40球を超えているため、第6日目の3日間連続登板はできない。
投手E	65 休	40	休	休 40	65	休	小学生の部は、ダブルヘッダーの場合、どちらかの試合しか登板できない。 登板した翌日は105球まで投球可能。翌々日は登板できない。
投手F	65	40 休	休	40	25 休	40	第1日目65球、第2日目1試合目は40球までで、第2日目2試合目と第3日目は 登板できない。 第4日目と第5日目1試合目で65球以内であれば、第5日目2試合目は登板 できないが、第6日目は40球までは投球できる。

※数字は投球数。「休」は投手として出場できない日。「0」は登板しなかった試合。

※指導者は、公式戦だけでなく、練習試合も対象となっていることを認識する。

4. 小学生（ジュニアの部）

1) ジュニアの試合での登板は以下の通り制限する

- ① 1日最大60球とし連続する2日間で100球以内とする
連続する2日間で60球を超えた場合、3日目は投球を禁止する
- ② 3連投（連続する3日間）する場合は1日の投球数を30球以内とし、
4連投（連続する4日間）は禁止とする
なお当該投手の投球制限内での投球カウントの停止は行わない
ダブルヘッダーの投球を禁止する
- ③ 大会中は1日60球以内とし、翌日投球を休めば3日目は60球の投球を可能とする
- ④ ①～③を基本原則とするが、打者の途中で降板しなければならない投球制限に達した時は、
当該打者の打席終了までは投球を認める
投球数を超過した球数は翌日以降に投球数にカウントしない
- ⑤ 小学部においては投手から捕手の制限は設けない
- ⑥ ボークは投球数としない
- ⑦ 申告敬遠は投球数としない（打者の途中の場合は、それまでの投球はカウントする）
- ⑧ 雨などでノーゲームになった試合は投球数にカウントする

2) 練習の中での全力投球は以下の通りとする

1日50球以内、翌日は投球してはならない

「小学生投手の投球数制限統一ガイドライン」の適用例

	第 一 日 目	第 二 日 目	第 三 日 目	第 四 日 目	第 五 日 目	第 六 日 目	備 考
投手A	60	0	60	0	60	0	60球投げた翌日には登板していないため、翌々日には60球投球できる。 (打者終了時に60球を超えても、1試合分の最大カウント数は60球)
投手B	60	40	休	60	0	60	第1日目60球、第2日目40球で連続する2日間で100球となったため、 第3日目は登板できない。
投手C	30	30	30	休	60	40	30球以内で連続する2日間で60球以内であれば3日間連続登板可能。 ただし、球数に関わらず3日間連続登板した場合は、第4日目は登板できない。 第4日目が休みだったので、第5日目60球、第6日目40球の投球可能。
投手D	30	35	休	20	40	休	第1日目、第2日目で60球を超えたため、第3日目は登板できない。 第4日目、第5日目は60球以内だが、第5日目で30球を超えているため、第6日目の3日間連続登板はできない。
投手E	60 休	40	休	休 40	60	休	小学生の部は、ダブルヘッダーの場合、どちらかの試合しか登板できない。 登板した翌日は100球まで投球可能。翌々日は登板できない。
投手F	60	40 休	休	30	30 休	30	第1日目60球、第2日目1試合目は40球までで、第2日目2試合目と第3日目は 登板できない。 第4日目と第5日目1試合目の各試合で30球以内であれば、第5日目2試合目は 登板できないが、第6日目は30球までは投球できる。

※数字は投球数。「休」は投手として出場できない日。「0」は登板しなかった試合。

※指導者は、公式戦だけでなく、練習試合も対象となっていることを認識する。

5. 愛知県中央支部の取組み事項

【運営方法】

- ・投球カウンターを使用
- ・審判は基本的にカウントしない
- ・本部席にて役員が両投手の投球数をカウント
- ・インニング終了後に球数を確認、場内アナウンス
- ・投手が80球に達した時に場内アナウンス

	1	2	3	4	5
Aボーイズ	⑫	⑨			
Bボーイズ	⑩	⑦			

例) Aボーイズ〇〇投手、2回の表の投球数は9球、トータル21球です。(2回表終了後にアナウンス)

Bボーイズ〇〇投手、2回の裏の投球数は7球、トータル17球です。(2回裏終了後にアナウンス)

Aボーイズ〇〇投手、投球数が80球になりました。